



消防車・救急車の緊急走行にご理解とご協力を！

緊急自動車（消防車、救急車など）は、一刻も早く火災などの災害現場に到着し、被害を最小限にするための消防活動を行ったり、けがや病気の人を速やかに医療機関へ搬送しなければなりません。自動車を運転中に、緊急自動車が接近してきた場合は、次のように対応してください。

▶交差点またはその付近

交差点内を避け、道路の左側に寄って、一時停止してください。

▶交差点またはその付近以外

道路の左側に寄って、進路を譲ってください。

▶高速道路など

緊急自動車が本線車線に進入しようとしている場合は、妨げないようにしてください。

▶狭い道路

狭い道で停車する場合は、緊急自動車の通行に支障がないようにしてください。

▶自転車走行中または歩行中

自転車の走行や歩行を止め、進路を譲ってください。



※緊急自動車は、走行中サイレンを鳴らすことが法律で義務付けられています。夜間など緊急走行時のサイレン音についてもご理解をお願いします。

除雪のお願い

消火栓や防火水槽が雪に埋まってしまうと、消火用水の確保に時間がかかるため、火災が広がり、被害が拡大してしまいます。

そのため、積雪時には消防署でも除雪作業を行っていますが、管内の消火栓などを全て除雪することはできません。

お住まいの周囲を除雪される場合は、お近くの雪に埋もれた消火栓なども除雪いただきますよう、ご協力をお願いします。

除雪した雪で消火栓などを埋めてしまわないようご注意ください。



彦根城博物館の学芸員が、各自の研究テーマについて、日頃の研究成果を踏まえて解説します。

「井伊家伝来の公家装束を紐解く」

井伊家に伝来した、当主やその世継が儀式で用いたとみられる、石帯（せきたい）や平緒（ひらお）をはじめとする公家装束。これらの資料について、調査の結果を踏まえて初めて紹介します。



◀平緒

【日時】 2月18日(土) 14：00～15：30

【講師】 当館学芸員 【場所】 講堂

※資料代100円（観覧料は別途必要）

※当日受付（先着50人、受付は13：30～）

■【休館日のお知らせ】 2月8日(水)、同9日(木)

■2月10日(金)～3月13日(月)は施設整備のため一部休室します。

2月7日(火)まで 「彦根藩の年中行事」

殿様から家臣まで、一年を通じて様々な行事を行っていた彦根藩の年中行事の様子を紹介します。

2月10日(金)～3月13日(月) 「雛と雛道具」

井伊家13代直弼の愛娘弥千代（やちよ）（1846～1927）の雛と大揃いの雛道具を、地元の旧家に伝来した古今雛（こきんびな）や御殿飾（ごてんかざり）などとともに一挙公開。春の訪れを告げる恒例の展示です。



▲弥千代の雛道具

■スライドトーク

【日時】 2月11日(土・祝) 14：00～（30分程度）

【解説】 当館学芸員 【場所】 講堂

※無料（観覧料は別途必要） ※当日受付（先着50人、受付は13：30～）

■2月11日(土・祝)は開館36周年記念日

ご観覧の方にくじびきで記念品をプレゼント！（無くなり次第終了）

チケット情報

ひこね市文化プラザ

2月23日(木・祝) 14:00 メッセホール ※小学生以下は無料
(席が必要な場合は要チケット)

彦根ゆかりのアーティストシリーズ
Joyful Concert ー歌う喜びに満ちてー

【自由】【発売中】 一般500円 友の会450円

3月4日(土) 13:00 グランドホール

音楽劇 **ピーターとオオカミ**

小学生以上

託児あり(有料・要予約)

【指定】【発売中】 前売：一般3,500円 友の会3,000円

高校生以下1,500円 ※各当日価格あり

俳優 西村まさ彦によるドラマリーディングで音楽と言葉の掛け合いを堪能できる舞台です。

3月11日(土) 10:00/13:00 第2研修室

大人のための文化芸術体験 ～陶芸絵付け教室～ 講師：手作り工房 種芸

【参加費】500円※当日支払【定員】各回15人(先着順)(18歳以上)

【申込方法】チケットセンター窓口・電話【申込開始日】2月11日(土)～(初日は電話のみ)

4月9日(日) 14:00 エコーホール

【協力事業】オペラ物知り講座inひこね Vol.15 ファイナル **妖精ヴァイツリ**

【自由】【発売中】前売：2,800円 当日：3,000円 ペア：5,000円(前売りのみ)

中村敬一氏の洗練された演出と解説をお楽しみください。

申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)
チケットはインターネットでもご購入いただけます。https://bunpla.jp/

2月の休館日：6日月、13日月、20日月、27日月

みずほ文化センター

3月4日(土) 14:00 多目的ホール

彦根亭 みずほ寄席 vol.47

<出演>笑福亭松五、笑福亭呂好、
ふじいもやし、ブルーウェーブ

【自由】【発売中】

前売：500円 当日：600円

小学生以上

託児あり(有料・要予約)

3月11日(土) 14:00 多目的ホール

石原詢子コンサート 2023

【指定】【発売中】

前売：3,000円 当日：3,500円

デビュー35周年・芸道生活50年

を迎え、名実ともにますます充実

した活動が続ける「石原詢子」の

魅力あふれるコンサート。

小学生以上

託児あり(有料・要予約)



申込・お問い合わせ先
みずほ文化センター ☎43-8111 (9:00～17:00)

2月の休館日：7日月、12日月、14日月、28日月

◎表記の価格は全て税込価格です。

◎入場制限のある公演は、託児サービスを実施します。

子ども1人1,000円。各ホールまで事前予約が必要です。

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取扱い】

※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。

※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

【ひこね市文化プラザ・みずほ文化センターでは、次の感染症対策を実施しています】 ▶館内設備の定期消毒 ▶手指消毒液の設置
▶飛沫飛散防止カーテンの設置 ▶非接触型体温計の常備 ▶新型コロナウイルス感染拡大防止システム「もしサボ滋賀」の表示の設置



▲雛飾りのうち菱餅と菱台

菱餅の起源は、もとは宮中で正月に食された菱餅とされています。これは白い餅の内側に紅色の薄い菱餅を重ねたもので、この内側の薄い菱餅は、もとはヒシの実そのものを用いたと言われています。このような菱餅が簡略化され、菱餅が生まれました。菱餅がいつ頃から雛飾りに供えられる

3月3日は桃の節句とも呼ばれますが、正式には上巳の節句といい、他に1月7日の人日や5月5日の端午、7月7日の七夕、9月9日の重陽の節句などがあります。これらの節句は季節の変わり目にあたり、病気などの災厄が降りかかりやすい日と考えられてきました。そのため、古来、節句には厄を払う祈りをし、食べ物を神に供えて厄を肩代わりしてくれる人形を祀りました。

雛祭りに供える食べ物には様々ありますが、草餅、菱餅、雛あられなどのいわゆる雛菓子はその代表と言えるでしょう。中でも、紅や白、緑などの色の餅を菱形に切って重ねた菱餅は、「雛の餅」とも呼ばれ、その筆頭とされてきました。

ようになつたのかは不明ですが、江戸時代前期に発行された『日本歳時記』に、雛飾りの菱餅の図が見えることから、すでにこの頃には定着化していたと考えられます。

写真の菱餅は、木の板に縮緬布を貼って作った5枚の餅を重ねた形式で、昭和初期に京都で作られた雛飾り一式のうちのひとつです。重ねる餅の枚数は、東京などの関東では3枚が主流ですが、関西ではこの飾りのように5枚、あるいは7枚と重ねる例も見られます。

菱餅の色の定番は、白と緑と紅の3色です。実はこの色は、単に華やかさを加えるだけのものではなく、それぞれの色に意味が込められているとされます。下から白、緑、紅の順に重ねて、白で寒い冬を、緑で草木の出る初春を、紅色で花の咲く春を表すという説や、あるいは、下から緑、白、紅の順に重ねて、緑で地を、白で空間を、紅で太陽を表すという説が伝承されています。

もとは宮中などの限られた人々の間でのみ食された菱餅でしたが、いつしか桃の節句の供え物の代表となり、地域色豊かに展開しました。餅の色一つ一つにも意味が見いだされてきたのも、古より大切に伝えられてきた菱餅ならではの特色と言えるでしょう。

【彦根城博物館学芸員 奥田 晶子】

写真の作品は、特別公開「雛と雛道具」で、2月10日(金)～3月13日(月)の期間、展示します。

よきの玉手箱

博物館からのメッセージ